翌檜 ～習慣は力なり～

旭川永嶺高校
進路指導部通信
令和５年４月２８日
１・２年年次版第２号
（文責　高橋）

進路目標を達成するために②

１年次の皆さんは高校受験が終わり、ほっとしているとは思いますが “受験”は今日も刻々と近づいています。高校3年間を有意義に、そして進路実現を勝ち取るために、高校1・2年次のうちにやっておくべきことを確認しましょう。

まずは、1年間の流れを行事予定表で確認しましょう。進路の手引きの3年間の見通し表（進路シラバス）が近々配布されます。進路についての情報がたくさん載っています。しっかりと確認して今後に備えましょう。

高校生活は、部活に行事に勉強に大忙しです。そんな充実した毎日の中で、自分の将来について少しずつ考え、大学受験の準備をしていく必要があります。
ここでは高校1・2年次のうちに準備しておきたいことを紹介します。

学習スタイルの定着

高校の授業は中学よりも授業進度が速く、内容も難しくなっています。授業の内容についていくために、1年次（2年次）の早い段階で学習スタイルを定着させましょう。

学習スタイルの基本は、[予習]→[授業]→[復習]です。まずは、予習をして、わからない所がどこかを明らかにしたうえで、授業に臨みましょう。そうすることで、自分が聞かなければならない所に特に集中して、授業を受けることができます。そして復習をすることで理解度を確認し、さらに知識を定着させることが大切です。もし理解できていない所があれば、先生に質問しに行くなどして、できるだけ早く解決しましょう。理解できたと思えるようになるまで何度も復習しましょう。

自分が理解できていなかった所は、1週間後に再度復習をするとより効果的です。部活動が忙しく、その日のうちにできなかった場合は、週末に補うなど自分にあった学習スタイルを確立しましょう。1・2年次は前期中間考査がありませんが5月の連休を利用して単元テストへの準備をしましょう。

早期に文理を選択！

文系・理系どちらのコースを選択するかは、将来の進路を決める際に、非常に大きく関わってきます。比較的時間に余裕のあるうちから、学びたい分野について考えてみましょう。
<u>進路科目選択説明会（2年次5月11日（木）、1年次5月31日（水）が開かれます</u>。保護者の方ともしっかり自己の適性について話し合い慎重に決定しましょう。

文理選択で大切なことは、「数学が苦手だから」、「国語が苦手だから」といった「苦手」を理由に選択してはいけないということです。将来自分が就きたい職業や、興味のある学問が文系、理系のどちらで学べるのか、という観点で考えるようにしましょう。進みたい進路をどう見つけたらよいかわからない、という人は、新聞を読んで、自分が興味のある内容はどういう記事かな？と考えるなど、身近なものから興味のあるものを探すのも有効な手段です。

苦手と向き合う

苦手科目や苦手分野は誰にでもあります。この「苦手」と向き合い、克服できるかどうかが、志望校合格のための鍵となります。国公立大では、受験に必要な科目が「8科目」とかなり多いのが一般的です。英・数・国の主要3教科の苦手は高1・2生のうちに克服しておきましょう。間違えた問題や理解ができていない所は、教科書を繰り返し読んだり、先生に質問したりと十分な時間をかけましょう。時間に余裕のある高1・2年次のうちに、とことん苦手と向き合いましょう。

大学入試の仕組みを理解

大学入試の仕組みや制度は複雑です。「国公立大」と「私立大」、「一般選抜（一般入試）」や「学校推薦型選抜（推薦入試）」「総合型選抜（AO入試）」ではそれぞれスケジュールや選抜方法が大きく異なります。正しく理解し、今後の学習計画を立てましょう。 進路の手引き：受験の基礎知識を参照

2025 年度入試（2025 年4月入学者向けの入試）からは、新学習指導要領をもとに、大学入学共通テストの教科・科目の再編など、大掛かりな変更があります。早めに情報収集を行い、新しい入試に対応した対策を行う必要があります。

進路先の学校研究

いろいろな学校について調べ、自分が学びたいと思える分野に出会いましょう。オープンキャンパスに参加したり、興味のある学問に関する研究が行われている学校について調べたり、自分の目で見て、聞いて、進路研究をしてください。志望校に対する具体的なイメージをもつことは、勉強に対するモチベーションアップにつながります！　進路の手引き一合格体験記では多くの先輩がオープンキャンパス参加を進めてくれています。ぜひ　読んでください。

英語外部検定利用入試について

「英語外部検定利用入試（＝外検入試）」を実施する大学・短大は増えています。昨年何らかの形で外部検定を利用した入試を行った大学は、４８２大学（英検 HP から）にのぼっています。今後も外部検定利用入試を実施する大学が増えると考えられます。

本校では年３回英検の準会場として３～２級実施しています。受験料も本会場より安く受験できますし、ライティングや２次面接も英語科で担当者を決めて指導しています。２年次の冬までに取得するといいと思います。

大学入試優遇制度の例

１ 出願資格

出願条件として、各大学が指定する外部検定の級やスコアの保有を義務づけている。

２ 得点換算

保有している外部検定の級やスコアのレベルが、共テや独自・個別試験の点数に換算される。資格レベルによっては「満点」に換算されるケースもあり、実質的に英語の試験が免除となる。

例えば……　英検準２級を持っている ⇒ 英語の個別試験の「　70 点」に換算
英検２級を持っている　⇒ 英語の個別試験の「　80 点」に換算
英検準１級を持っている ⇒ 英語の個別試験の「 100 点」に換算

３ 加点

受験生が保有している外部検定の級やスコアに応じて、共テや個別試験の得点に対し、決められた点数が加算されるパターン。得点換算と同様、英語力に自信がある受験生にはメリットがある。

４ 判定優遇・合否参考

大学が指定する外部検定の級やスコアを保有している場合、１次試験や最終選考などで出願書類の評価や合否の判定における優遇が得られる。例えば、「英検２級以上=合否判定の参考とする」など。

英検準２級以上になると利用できる大学が多くなるのでＨＰ等で確認してみよう。資格の有効期限を制限（取得してから２年以内など）をしている大学もあるので注意。

入試の一発勝負とは異なり、目標の級・スコア取得まで何度もチャレンジできます。

事前に換算点を確保できれば、入試本番までは他教科の勉強に専念できるし、出願資格の場合も、教科を絞って対策できます。大学での採用率が高い外部検定を取得しておけば、複数の大学の外検入試に利用できる可能性が高まります。専門学校や就職・公務員希望者も調査書に記載されます。積極的に受験しましょう。